

# ドル/円相場のトレード戦略

## ■ 中長期展望

年初からドル安・円高が続いてきたドル/円相場は、6月のEU離脱を決めた英国国民投票以降、何度か100円割れを見たものの、底抜けを回避してきました。

これは、年初からのドル下落幅が20円を超える大幅なものとなっているなか、根強い米国の利上げ観測と日銀による追加緩和期待が背景にあるものと思われます。

この状況は当面変化がなく、年内は100円～107円のレンジでの方向感のない動きが継続する可能性が高いでしょう。

### 【ドル/円 週足】



しかし、来年を考えるとドルが下抜けするリスク徐々に高まっているように思われます。

米国の継続的な利上げは困難となりつつあり、日銀の追加緩和策も手詰まり感が露呈してきています。

また、米国の大統領選でクリントン候補が優位となっているものの、まだトランプ候補が大統領となる可能性は残っており、トランプ大統領誕生の場合には、リスク回避通貨として円が買い進まれる可能性も否定できません。

相場の流れを見ても、一旦始まった円高や円安の波が1年程度で収束する例はほとんどなく、来年も今年の流れを引き継ぐ可能性が高いと考えられます。

ドル/円が下抜けしまった場合の目安としては、2011年の安値から2015年の高値の61.8%戻しである95円水準が考えられますが、90円程度までオーバーシュートしてしまうリスクも警戒しておく必要があるかもしれません。

# ドル/円相場のトレード戦略

---

## ■ 短期展望

先週は、ロシアのプーチン大統領が OPEC（世界石油輸出国機構）と協力し、原油生産調整に取り組む用意があるとしたことで原油価格が上昇しリスク・オンの流れとなったことや、第2回目の米大統領候補者による討論会でも、クリントン民主党候補の優勢は変わらなかったことを受け、ドルが104円64銭まで上昇しました。

前回高値を上抜いてきたことや一目均衡表の先行スパンの雲の上を推移していることなどから、ドルの下値不安が後退しています。

今週も、引き続きドルが底堅い動きを継続するものと思われます。

ただし、節目の105円水準からはドル売り意欲も強く、大きく上昇すること難しそうです。

したがって、今週は103円～106円のレンジの中で米国の金融政策や大統領選の行方をにらみながら上下する展開となるものと思われます。